



2025年5月1日～5月31日分

短詩系文藝

# 未来式金粉川柳シヨー

## 復活公園③

逆ひそばその瞬間に来なくなる  
パンツ脱ぎ座っているのは誰ですか  
爽やかな表情の理由知りぬまま  
上等の布団に包まり殺される

5月2日（金曜日）分

■短歌  
尿を飲むたちがいてその人を見下す人のまた尿を飲む

■俳句

いつの間に剥けたかしら春の園

■川柳  
ポスターの人と全くおんなじ服を賣いシャッターが下りるのを見て滑り込む

それは君アクション映画の観すぎです目が痛いきっと失明する予感

誰とでもする人が好きフラダンス

でくすくす女と男と餌の金

アレの日のテクマクマヤコンの香り充実の日の輝きと落とし穴

一本番とイクか

5月1日（木曜日）分

■短歌

ずっと好きでいた人の前に突つ立つて誇張するよと宣言をする

■俳句

俺ならば回転海老と残り鴨

ちょっとだけサンダーボルトに触れてみてー

この列の中にいい人いるのかな？

飲んだのは新大阪の駅の中  
天才は作れるんだから作ろうぜ  
道歩きながら川柳送ります、  
こんなことまでも言葉認識生きている  
お土産のしなじらしい間を喰いやべ

5月4日（日曜日）分

■短歌  
録音買って戻つて組み立てる長屋の骨が井上さん見守る

■俳句

サングラス外すとあらま可愛いね

■川柳  
新快速乗るへらいなら憤死する半年も同じ鞆で道歩く

どうぞきの心臓取り出し手術する母親の生きてた頃の額浮かぶ

ぱりぱりと電車の何かが剥がれてる

絶対にあげませんつたらあげません

こんなにも年寄りなのねぎみの猫濡れタオル当てて湿氣を出しましよう

緑色の身体を持つハルクかな

もうすぐねあと43年の我慢だね

5月5日（月曜日）分

■短歌

目の前は雲り空で私の心中は晴朗である

頑張つて世界に抗したきみだから

きみの恥骨が欲しかった父

■俳句

金魚釣り挙動不審の我の魂

■川柳

鉄路にてゆきます春の園の中  
きみ知らぬだけなの寒はばらだいす  
骨折をした人のためこの医院  
爆発があったと噂の路地のビル  
この時刻見つめためだけ生きている

散々な目に遭いましたエキスボで  
首モグラという怪獣の真の名は?  
動力で動くのならば燃始する

髪面の男が前に座つてゐる

## 禿頭の羊が一疋寄つてきて

早々に引き上げましょう勝つまでは

盗撮体操着脱ぎ散らかして犬が寝る

心なき事が大事な心です

## コンピュータ戦争銃後に我闘えり

縞馬の服着て縞の馬になる

有終の美を飾りつつ復帰する

## トイレットペーパーのため命捨て

5月6日（火曜日）分

■短歌

葉桜になつてしまつたきみのこと

どうしようもなく哀れだと思つ

■俳句

## 季語といふ補助輪のあり夏の月

■川柳

各駅にとまる列車を馬鹿にする

牛乳を「リップル」一氣飲みしていた千じもは私がある

野洲という間抜けた地名の訳を知る

頂上を目指して今日も自選ぶ

美しい数式の美に悽りゆく

世界史と日本史とあの英単語

お前には一寸たりとも負けません

街路樹の葉っぱもさつつ今日もゆく

さぶさぶ濡れのお前の身体温める

おちあよつとだけ早くして早くして

山崎で降りるおりして車内便機（トイレゆく）

5月7日（水曜日）分

■短歌

暑りや鬱陶しくてならぬから

腹人分目プロジェクトしてゐる

心なき姿に呆然する朝に

## ルピナスの姿に呆然する朝に

遠出しているまに家を売られてる

引っ越して引っ越してよし我ら生き

春霞かかっているねきみの脳

芥川の橋の欄干眺めおり

天ぷらを食べたい日には電話する

そこら辺うろついてみてから決めて

パソコンを電車で使う無能人

気持ち良い春の日差しに眠る人

## 悪徳の出版社を騙す

船出なご言葉の意味が分からぬ

■短歌

5月8日（木曜日）分

## 恋人のいない季節に咲く花が

妙に美しくあり美しくあり

■俳句

満杯のオーバンバスやリラの咲く

どちらけ電話の主と酒交わす

赤すぎる薔薇はやつぱり血糊でした

5月9日（金曜日）分

■短歌

人生をかけるわけでもないままに

スマホゲームをやり続けるひとよ

■俳句

## マロニエ下で見直す設計図

■川柳

じゃあまたね気分乗らないバイトする

シャツターが閉まつた玄端に服を脱ぎ

## ちよつとだけ味見をしてもいいですか？

男好きを堂々という留学生

階段は身体に毒止めましょう

本読んで本読んでまた本読んで

本書いて本書いてまた本書いて

ぱつちんと輪ゴムで遊ぶ男女たち

薄暗い街頭下で抱き合つて

どういけばいいのでしょうか泣き喰く

5月10日（土曜日）分

■短歌

結論が見えないとこう歩くから

その旅の道とても楽しい

■俳句

車内にて分厚い新書読む阿修羅男爵  
計画を立てるためのみ立ててみる

ストレスを感じられない人と寝る

何凧までも見渡せるのに置きマガネ  
白菜の売れ残ったのを賣た買ひ  
ヌーブラとは何ですかと真顔

豆飯勢いつけて夏を飛ぶ

■川柳

窓の外殺人事件が起つて  
熊の皮剥いで被つて熊になり

## 悠々とした顔をして焦つてる

大好きな宇治の河原が過ぎてゆき

墓場なら墓場なんだと言いなさい  
やさしづかいう変な名の特等席

生々しい顔が嫌です相撲取り  
通過する列車待つほど暇でやない

入れ食いのその向こうには幸せが  
通り

## 街中に鳴り響く鐘不辛者

5月11日（日曜日）分

■短歌

腹の立つことはあります世の中で  
ネパールのことと思う天国

牛蛙を子どもの頃より飼っている

■川柳

かんかんと音たてて陽が昇りゆく  
輪つか抜け捕まえれば陽の子ども

## 走り去る後ろ姿に恋をした

滅びゆく者があみんな手を挙げて

あげまんをいくつ食べたら気が済むの？

息とめて転生する迄待ちましよか

夫婦連れ電車の中で堅すかしい  
ヌーブラと言つ言葉だけ懐かしい

我こそが覆面の人チャンピオン  
このあとはどうするのかな知りません

ジーンズを洗い尽くして素足な

5月12日（月曜日）分

■短歌

膝小僧擦りむいたからつて泣きながら

## 僕に訴えても君は知らぬ子

金魚鉢被つて踊ねば龍宮城

ギアチエンジして登り切る極の上

美人妻不美人な妻みどりのい。

モテナイくんが沢山来ている京都です  
デストロイやーみたいな裏面ですね！

暑り空青空白空風まかせ

## フヘンで走るどしまで涅槃まで

5月13日（火曜日）分

■短歌

納豆を死ぬほど食べて女性化し  
ああ無禮笑顔の醜いあなたです

いざ恋ひ水族館が割れでます  
ポンチョ着てバージン抱いて眠ります

5月13日（火曜日）分

■短歌

山崎の山頂にある思い出  
古風な館で愛かたりなは

5月14日（水曜日）分

■短歌

葉桜が好きですなんて言わないで

■川柳

日差し強く心弱し我ら

三角の屋根にマークをつけて焼く

フォルテシモそのマークなら僕らです  
どちらのコ狙つてゐるのか君と僕

おんぼろな車で君を抱きました  
モテるはずないよう人に囲まれて

ジーンズを洗い尽くして素足な

パンティーと言つ渾名なら脱ぎますね  
タスマニアデビルに倒れるとも言われ  
確信を持って講座に登刻する

5月14日（水曜日）分

■短歌

伏しままイチニイサンシ数えてる  
裏の子供らを飛び越えて出社

ほんとうに糞を垂れつ歌いたる  
■川柳

欲望を欲望として表現する  
欲望を欲望として記録する  
欲望を口記のように書き記す

「欲望」 川柳一句を書かんとするに詩の形にする  
欲望を現実として表現する  
欲望を設計図として動き出す  
欲望を知らせぬままに手をつけ  
欲望を知らせるためにデータする  
欲望を知られたために逃げ帰る  
欲望を欲望のまま土に埋める  
欲望に欲望を欲望と呼びかける

■川柳

欲を現実として記録する  
欲を設計図として動き出す  
欲を口記のように書き記す

「欲望」 川柳一句を書かんとするに詩の形にする  
欲を現実として表現する  
欲を設計図として動き出す  
欲を知らせぬままに手をつけ  
欲を知らせるためにデータする  
欲を知られたために逃げ帰る  
欲を欲望のまま土に埋める  
欲に欲望を欲望と呼びかける

■川柳

欲を現実として記録する  
欲を設計図として動き出す  
欲を口記のように書き記す

「欲望」 川柳一句を書かんとするに詩の形にする  
欲を現実として表現する  
欲を設計図として動き出す  
欲を知らせぬままに手をつけ  
欲を知らせるためにデータする  
欲を知られたために逃げ帰る  
欲を欲望のまま土に埋める  
欲に欲望を欲望と呼びかける

■川柳

欲を現実として記録する  
欲を設計図として動き出す  
欲を口記のように書き記す

「欲望」 川柳一句を書かんとするに詩の形にする  
欲を現実として表現する  
欲を設計図として動き出す  
欲を知らせぬままに手をつけ  
欲を知らせるためにデータする  
欲を知られたために逃げ帰る  
欲を欲望のまま土に埋める  
欲に欲望を欲望と呼びかける

■川柳

欲を現実として記録する  
欲を設計図として動き出す  
欲を口記のように書き記す

「欲望」 川柳一句を書かんとするに詩の形にする  
欲を現実として表現する  
欲を設計図として動き出す  
欲を知らせぬままに手をつけ  
欲を知らせるためにデータする  
欲を知られたために逃げ帰る  
欲を欲望のまま土に埋める  
欲に欲望を欲望と呼びかける

■川柳

欲を現実として記録する  
欲を設計図として動き出す  
欲を口記のように書き記す

「欲望」 川柳一句を書かんとするに詩の形にする  
欲を現実として表現する  
欲を設計図として動き出す  
欲を知らせぬままに手をつけ  
欲を知らせるためにデータする  
欲を知られたために逃げ帰る  
欲を欲望のまま土に埋める  
欲に欲望を欲望と呼びかける

■川柳

命削るよとよく言つたものだ嘘書き  
土を掘るようと言葉をはめ込んでやくんだ

ああれば幻の時期だったのかしら  
乳房搾り以上の暴力はないぞ

冗談めかして懺悔する奴を殺す

5月15日（木曜日）分

■短歌

どれだけの力があるか見てやろうと言つてくれた神を過かにしのぎた  
し夏

■俳句

聖五月ゆえに穢したし穢し穢したし五月

■川柳

ぽつぽつと間抜けた音が石油ストーブから  
する夜の感傷

ひよひよひよひよ白眉があれば定期にはならない  
極端な金剛硝子を食す者

サザエさんの実写版見て廢される  
いじまでは決して息つく暇もなし

飽きてきたらいでないと駄目なんですよ異物

村々を襲つて全て焼く任務  
ガチシコの使命で朝から動いてる

その人 小つるさい人 黙つとれ

5月16日（金曜日）分  
■短歌

心なら強いといふそのためにそのためにのみ生きている今  
■俳句

風光るわね同じゅうす全時刻

■川柳

城ひゆく國に住まひて未來見る  
絶対に心中から絞り出す

ミキサーとコンサートあれば死にはせぬ

## 瘦せこけた蛙を見つけ号泣

亀で生きその後十年生きています  
ともかくもスケッチせよと美先生

どうでもいいから生きていってほしい  
トムなどほきつとシェリーを棹ねはず

脳内の地図探りつつ散歩する  
朝何本か引き抜いてみた電話線

正しくないと分かっていてもやる仕事を  
パンを焼き家焼き我の骨も焼き

もうマイッタしなさいよお前

5月17日（土曜日）分

■短歌

崖を想像せよ そこに立つわれを 君を 腕を もつとリアルに  
どんなことでも許す人ありそれ いいね

■川柳

人は人庄倒的に滲み出る  
爽やかという言葉あり切り裂きけり

飛ぶ覚悟さえあればすぐ近くの難産

真言とは思ひあがつた言葉である

坊さんでもある女衒もある  
固いことをいねつとするから軟弱になる

こんなにも自由なんだと鶴が啼く

籠の鳥うるさいへうるさいへうるさいへ可憐し

白鳥の次に君のことが好き

5月18日（日曜日）分

■短歌

何事も本気になれない人がいて  
絶望と呼ぶがそれは間違い

■俳句

心なら強いといふそのためにそのためにのみ生きている今  
■俳句

桜の実われにありて療法

■川柳

城ひゆく國に住まひて未來見る  
絶対に心中から絞り出す

ミキサーとコンサートあれば死にはせぬ

じつでもいい色彩の油彩画家  
咳をする人がねている我的部屋  
極限までやつまきやうまくなつむわー<sup>ー</sup>  
万博の入館整理券を焼く

破裂音遠くで聞こえるペピリオン  
正しくないと分かっていてもやる仕事を  
パンを焼き家焼き我の骨も焼き

もうマイッタしなさいよお前

5月19日（月曜日）分

■短歌

いろいろ人の放った言葉なら  
もつさよならをしてもいい頃

■川柳

坊さんでもある女衒もある  
固いことをいねつとするから軟弱になる

こんなにも自由なんだと鶴が啼く

籠の鳥うるさいへうるさいへうるさいへ可憐し

白鳥の次に君のことが好き

5月20日（火曜日）分

■短歌

どうみてもまだあさんにしか見えません  
そりやどうもこれはおしゃべり今日は

先生が遠くばかり眺めてる

本棚に蟻が蜜を吸いに来る

スカートに蟻がたくさん集つてる

我ら皆理想に燃ゆる國の民

白線を密かに消して侵犯す

ロクテナンと呼ばれてそれを隠すやうけ  
アングラの人持てない悩みあり

金玉が大きいのだと自慢する

大空の青に浮かぶる二角にひれ伏すように折る人々  
■俳句

夏めく口あなたの叶真聞いている

■川柳

板張りの廊下読経書きおり

私はタコです顔だけで足がない

穢縁をしきりに廻ける人がいる

ヒトガタをちょっと借りてもいいですか

張飛は貸し出し中です、すみません

## 両目から鱗が落ちて見えません

あほらしい音楽ばかり聴いてます

全力で走り出したら止まらない

動力があまりすぎるみたいだね

若い衆集めて焚火をありますやう

5月21日（水曜日）分

■短歌

## 御手洗のまだ手に冷たき水のことし

君に触れたる切なき思いは

■俳句

苗売りや短き夜のために泣き

■川柳

自動操縦車に乗つて天国にゆく

お焼き場の温度調節は自分では出来ない

焼き鳥は皮ぱりぱりに焼いてくれ

低能の人々と飲む麦酒自し

同窓の人も病に範れたり

## もう一度とゆかない外地の色硝子

夢に見しアグネス・ラムのフルヌード

どうしたる言う直前などつかれる

書子を振ると同時に振られてた

ジャスマシンの香に魅せられ家出する

5月22日（木曜日）分

■短歌

小人らを手の中に入れゆくがゆえ

手に汗握る場を避けている

■俳句

涙出て飯も轟きぬかきっぱた

■川柳

週一回決まつたようにやる仕事

年一度決まつたようにやる仕事

一秒後決まつたようになるとまぐ時

砂利入れを財布はたいて買いました

塵取りの中に小錢が落ちていた

## 真っ赤だな真っ赤かだな真っ赤だな

龍神に祈り捧げて餅もひう

桟橋が短く半身水に濡れ

それやそよごうかしてるね君の恋

## 水色の下着を記念に掠め取る

5月23日（金曜日）分

■短歌

今度また行きましょうねと誘われて

今度ていつよと問い合わせる人

■俳句

夕牡丹だるい女と「入旅

午前中檜原神宮前に乗り

言い訳はそのくらいが可愛いね

ばしこんと後頭部うち嘔続ける

これ全て時間の無駄と判定す

蒸氣発することは何か「薬缶」

一里塚をとおりに歩くばかばかり

## 鴨川で溺れる人もあるのです

鴨川も一応は川死にます

## 猛然と体を預けてくる西瓜

5月24日（土曜日）分

■短歌

もしも君があと一年の命ならどれだけの歌をもつと歌える

■俳句

帰り道笑つてばかり夏の月

■川柳

井戸端に子熊が走る騒ぎです

ぬるぬるとした湯につかり夢をみる

暴走の王と初めてお会いする

言葉なら前田日明にでも勝てる

哲学者だという君には連絡しないですつと

とうせんぼされた記憶だけが鮮明

## アンダント貫くことのできる人

上陸を途中でやめる君の腰

我々の神はカーネルサンダース

トクオカがポークしていくどうしよう

5月25日（日曜日）分

■短歌

地獄譲の上から見下す僕なれば

どんな顔して笑つてみえるか

■俳句

もう梅雨に入るのを待つばかりなり

■川柳

ずんだご節の原義は恥ずかしいはず

## 木を切つて稼ぐあなたはエリートね

人騙し稼ぐあなたは裏の人

木の枝のように浮かないわが國像

## ちよこまかと動くわれらのお嬢様

騙されてガールズバーの女を知る

金貯めてガールズバーに貢ぎるもの

連絡はこっちにくださいガールズバー

どうしても貴が伸びないの軒動です

ハンバーガー やつきになつて分裂し

5月26日（月曜日）分

■短歌

こひびとのつれなき言葉に驚きて

緑の衣装で死に給ふなり

■俳句

幼さの毒貫いて草莓

■川柳

秒針の動きを朝から記録する  
瞬時のなるチャイムの音歪んでる

夕来る逆立ちするの忘れてた

春の日の息継なしの向こう岸

土足禁止の博物館で逢引す

飽きてきたプレハブ住宅折りたたむ  
プレハブの螺旋階段割れやすし

ピアノ弾く少女の指の写真撮り  
ミクノから電話かかつてすぐ切る

情報と神経病の相関図

5月27日（火曜日）分

■短歌

「砂漠谷」という呪文だけ残しつつ  
君はどこかへ消えてしまった

■俳句

青野原恋人たちと発電所

■川柳

龍宮の地図なくしたり恋の闇

時止まり、あたしや太変 小学生

ドンキッコつて何でしたかねと君尋ね  
つまみぐいし続けたからできました  
肩こりに効くのは恋の薬かも  
妄想のコップで酒を飲みまくり  
こんなにも桜田淳子を思い出す

■川柳  
切岸にこゝやかに立つ少女あり  
踊るのは背中がかゆい翔子です  
全体の中に自分を括ってみる  
遠回りして到着の療法士

火遊びをした日に火事になりました

恋人と連れショボをする夢をみて

余命ありと看板に書く意義は何?

YouTube ドオひけらかすわしの亀

どうですか・ひつきりなしに誘い来る

パンクーバーあたりに住んじゃおうでしょう

まだ夏の感じで生きて死んだ君

よしんせよそれならよしとせよその生き方

観たいもの見逃す宿命のわたし

昨日よりも美しき人金魚玉

■川柳

年末の録画を思い出して観る  
AIと深い関係になり困る

思い立ち立身出世を企画する  
地図を書き地図を貢つて世に尽くす

ある朝に駄句をたくさん読みました  
さあさあ今年も下着に虫が居る

ノーマークブレイヤーに全部奪われて  
あいつなら郵便ボストの成れの果て

考える力を捨てた招き猫  
ヨガなどばんじりで俺はある

5月29日（木曜日）分

■短歌

「砂漠谷」という呪文だけ残しつつ  
君はどこかへ消えてしまった

■俳句

一時間おきにメールが来るのはなぜ  
愛 恋 情がまたは督促

■川柳

柔らかい君自家製のジュースです  
貪つて骨まで尽くして僕の鳥

5月31日（土曜日）分

山藤や廃校になお美しき

■短歌

君がもし鳥籠に居て鳴つて  
その後飛び立つなら僕も飛ばうよ

■俳句

五月尽き我が約束も消えて今

■川柳

むしやむしやという音はそれ笑い声  
今回の教訓生かしては嫌よ  
垂直式睡眠で完全に復活だ  
夢に出るブルーノ・サンマルチノ亡靈  
コップ割り皿割り目標も割り  
読本の裏側まで読む力なし  
目撃をむかし訪ねた日の記憶  
遠くから呼ぶ声がする頃の声  
根性の腕立てのすべてお陰です  
いまでは来たが頂上ずっと先